

山首上人さまご講演

布^ふ
施^せ

自分^{じぶん}のできることで



サクラ「松月」

法華経は末法悪世にこそ必要な教えです

布施

「慳貪の者には布施の心を起こさしめ」

(無量義経十功德品)

慳貪の者といえは、物惜しみする人です。

なんでも自分を中心にして、他の人进行

やらない者は、他人より嫌われます。

嫌われる者は、物質的にも精神的にも、富

というものはありません。

自分の行ないの悪いことを反省することも

なく、他人を憎み、世を呪い、味気ない無

意義な一生を送ってしまいます。

そればかりか将来、永遠に苦しむ、悪い種

ばかりをまくことになるのでありまして、

まことに損な生活であります。

|| 御開山上人御法話資料 ||

御前様のおっしゃることは実に単純明瞭

であります、その単純なことがいざ実行

となるとなかなかできません。少しでも心

を広く、大きくするために、自分のできる

ことから実行してゆきたいものであります。

「慳貪」とは、平たく言うところ「ケチンボ」

ということですよ。

ケチンボな人が人に好かれることはあり

ません。布施の心に欠けるからです。慈悲

・至誠・堪忍を教えられる私共が、人から

そのように言われることがあつてはなりません。

せん。

布施というと、お参りに来て下さったお

坊さんにお出しする「お布施」と思われる

かも知れませんが、それだけが布施ではあ

りません。身・口・意の三業、つまり、自

分の行ない（身）で、言葉（口）で、心

（意）で相手の人を喜ばせてゆくことも大

事な布施であります。

この実行については、お母さん〴〵を思い

出される方も多と思います。最近はお母さん

〴〵お母さんがいて一概には言えませんが、

家の中でお母さんが身・口・意の施しを

行しておられたら、家族の皆さんきつと、

穏やかな日々を過ごせると思います。

三つ揃えば言うことありませんが、私は

言葉が苦手です。という人は、体を使って自

分のできることをすればいいのです。特別

目立つ、すごいことをしなくても、たとえ

ば道路に落ちてゐるゴミを拾うとか、トイレのスリッパを揃えるといったことではないのです。身のまわりを見渡せば、人の役に立ちそうなことはいろいろあると思います。そういうことがお互いにきちんとできたら、みんなが明るい心になれると思います。ケチンボと人に言われなかったために、仕事を通して、立場を通して、自分のできることで人に喜んでもらえることをしてゆきたいものであります。

先日テレビを見ておりましたら、若い女性芸人がご主人に対して、そんな言い方を

していいのかとびつくりするような言葉を使つていました。相手を馬鹿にしているというか何というか、人格を全く無視した言葉を、携帯メールで送つていると傲慢気にしゃべつていました。そういう人も世の中にはいるのか、とあきれてしまいました。だが、おそらくその人は子どもころからお母さんに、言葉でも心でも行ないでも施しを受けることなく、放し飼いのように育てられてきたのでしょう。その親がもし今も元気でいるのなら、これからでも遅くありませんから何とかしつけのし直しをしてもらいたいと思つたものです。首に縄をつ

けてでもやり直してゆかないと、将来決していいことにはならないでしょう。テレビを通して一般家庭にも入り込んできますから、周囲に及ぼす影響も考えてもらわなければいけません。言葉で人を喜ばせるどころか、罪作つてばかりの一例であります。子どもを放し飼いにすると本当に困ったことになるといふことを、改めて知らされた思いがいたしました。

言葉の施しの一つに、おはようございます。とか、こんにちはといった、ごく普通のあいさつがあります。これを、相手が氣付いても氣付かなくてもこちらから先

にしてゆくのです。逆に、相手に言われても知らん顔をしていると、罪を作ることになります。

家の中に一人あいさつの上手な人がいると、家中のみんなが仲良くやつてゆけるとおもいます。しかし、家族の間にあいさつがなくなると、ぎくしゃくした家庭になるに違いありません。

人に嫌われる人は、物質的にも精神的にも富がないとおっしゃいます。ここで言われる富は、大金持ちになることではありません。喜びです。

自分じぶんは好きなように生きていくけど、あの程度ていど満足まんぞくしている。という人も世よの中なかにはいるかも知れませんが、本当ほんとうの喜びよろこびがあるかどうかとなると疑問ぎもんです。

一時的いちじてきにいいことがあつて喜よろこべても、変化へんの激はげしい現代げんだい社会しゃかいでは、消きえるのもまた早はやいものです。過ぎ去すつた後あとに来くるのは再びふた、思おもうようにならない。という不満ふまんです。ついつい他人たにんを憎にくみ、世よを呪のろう。ということになりがちです。そこには自分じぶんが悪わるい。という反省はんせいはありません。病気びやうきになると多くおほの人が、突然とつぜん体の調子ちゆうしが悪わるくなった。というように言いわれます。

しかし因縁いんねんからすれば、突然とつぜん病気びやうきになることはありません。そうなるようなことを繰くり返かえして来たから病気びやうきになったのです。早はやい話はなしが暴飲暴食ぼういんぼうじよくです。そんなことばかりしていたら、体からだが悲鳴ひめいを上げるのは目めに見みえています。因果いんがの二法にぼうが証明しやうめいできたのですから喜よろこぶべきことかも知れませんが、そういう自分じぶんの行こう為いを反省はんせいすることもなく、どうして自分じぶんだけこんなことに……あの人ひとのせいだ。と他人たにんを悪者わるものにしたり、世よの中なかを呪のろつてみても始はじまりません。そういう無意むい義ぎな時間じかんを送おくっていたら、人生じんせいそのものが無駄むだになってしまいます。将来しやうらいがよくなる

保証はありません。

今世に作つた悪い因縁が、今世で消滅できるとは限りません。罪障が残つていけば、生きている今も苦しみから逃れられないでしょうが、困つたことにその罪障は、あちらの世界にもついてゆきますから、来世もまた苦しまなければなりません。

来世に持つて行けるものは、今世に積んだ功德と罪障だけと教えられております。今悪い種をまけばその種がそのままついで行き、やがて困つたこと、苦しいことが芽生えるということになります。これは大変損な生き方です。

逆に今、自分のできることで人の役に立つことをしてゆくと、今世にいい結果が現われなくても来世に持つて行くことができずから、先行きが大変楽しみになります。そういう楽しみをいっぱい持つて行きたいものです。その上その徳には、嬉しいことに利息がつくと言います。今の銀行の利息はただ同然であります。徳につく利息は「十一」というわけにはゆかなくても、ドンドンついでドンドン増えると言います。しかし困つたことに利息は罪障にもつくそうですから、注意しなければいけません。一つの罪障が三つにも四つにもなり、とん

でもないことに出くわさざるを得ないかも知れません。罪障は少しでも早く、少しでもたくさん消滅させたいものであります。

布施の一つに「無畏施」があります。

「恐れ無きを施す」つまり、思いやりの心、安心の施しです。

先程、お母さんの施しについてお話ししました。それは、家族の誰についても言えることです。

家にお父さんがいて、家族のためにちゃんと働いていれば、家中のみんなが安心できます。子どもが毎日元気に学校に行つて

いれば、お父さんもお母さんも安心です。

特別いいことをするのでなくても、日常生活の中であたりまえのことをあたりまえにきちんとしていれば、お互いが無畏施の実行をしていることになるのです。

法華経を、このように日常生活の中に生かしてゆくことが大切です。慈悲・至誠・堪忍も、頭でいくら知っていても自分の行ないにできなければ、絵にかいた餅と同じです。

施しもいいと思うけどそれは理想であつて、こんなに景気の悪い、思うようにならないことばかりの世の中で実行するのは不

可能だゝとか、そんなことをして本当にいいことになるのか」と疑ったりしてはいけません。

日蓮聖人は「法華経は末法悪世にこそ必要な教え」というようにおっしゃいました。

末法悪世になると人々は正しい信仰をしなくなつて、世の中が乱れると言われています。そういう世の中であるからこそ慈悲

・至誠・堪忍が必要なのです。自分のできることでも人を喜ばせること、そしてそれが実行できてありがたいと日々喜んでゆくことが、本当の法華経の信仰であります。

※「十二」||十日に一割つくという、高利の世界を揶揄した言葉。